

|| 2020年10月期 第2四半期連結業績

|| 2020年10月期 連結業績予想

|| 今後の展開 Creative 60

Creative 60

■新中期経営計画「Creative 60」重点施策

1. 「国内営業基盤の拡充」ー グループの総力を結集
 - ・既存エリアの深掘り
 - ・未進出エリア、低シェア領域の開拓
 - ・非建設分野への進出
2. 「海外展開」ー 海外戦略2.0 (Next Generation) へのバージョンアップ
 - ・グローバルポートフォリオの最適化
 - ・カナモト版グローバルプラットフォームの確立
 - ・ノンオーガニック戦略～海外でのM&Aの取り組み
 - ・海外売上比率10%への布石
3. 「内部オペレーションの最適化」ー レンタルビジネスの収益性向上
 - ・営業戦略(マーケティング、営業)とITの融合
 - ・商品企画、研究開発への資源投資 工事現場に必要な技術やシステム開発
～カナロボ ナクシデント AXキューイーン ICT建機～
 - ・業務効率向上
 - ・グループ流通を促進する環境整備～原価コントロール、長期的な安定稼働～
 - ・人財の確保と育成への注力

新中期経営計画「Creative 60」

〈重点施策〉

01

国内営業基盤の拡充



02

海外展開



03

内部オペレーションの最適化



|| 国内営業基盤の拡充

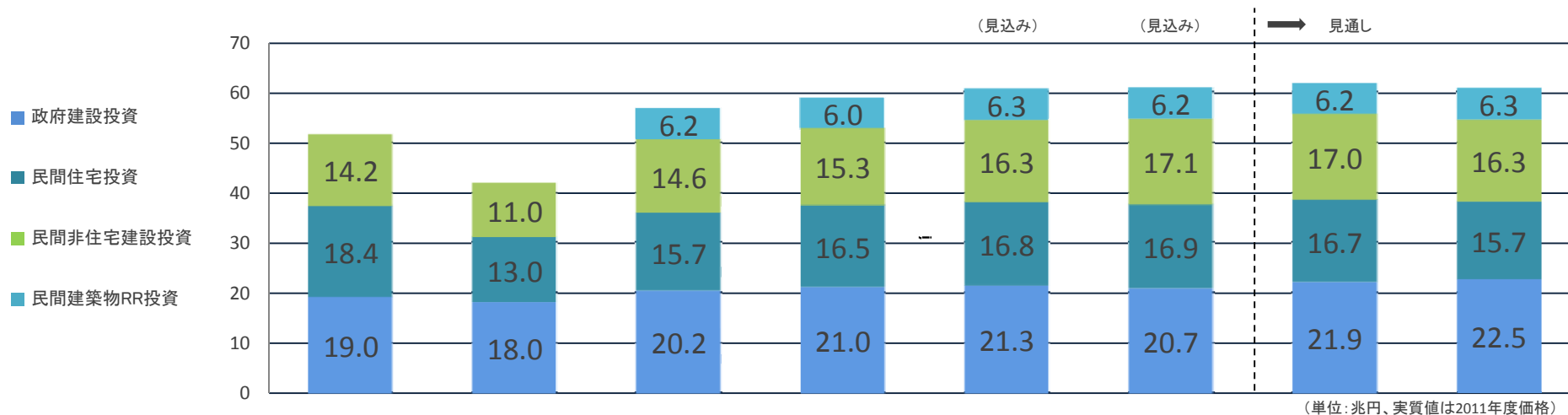
|| 海外展開

|| 内部オペレーションの最適化

国内営業基盤の拡充

2010年度の42兆円を底に増加に転じ、回復基調で推移
2020年度は約61兆円(前年度比1.7%減)の見通し

(単位:兆円)



(単位:兆円、実質値は2011年度価格)

年度	2005	2010	2015	2016	2017 (見込み)	2018 (見込み)	2019 (見通し)	2020 (見通し)
建設投資 (対前年度伸び率)	51.6 (-2.4%)	41.9 (-2.4%)	56.6 (19.3%)	58.7 (3.7%)	60.7 (3.3%)	60.9 (0.3%)	61.8 (1.5%)	60.8 (-1.7%)
政府建設投資	19.0 (-8.9%)	18.0 (0.3%)	20.2 (8.6%)	21.0 (3.9%)	21.3 (1.3%)	20.7 (-2.6%)	21.9 (5.7%)	22.5 (2.8%)
民間住宅投資	18.4 (0.3%)	13.0 (1.1%)	15.7 (5.5%)	16.5 (4.9%)	16.8 (2.3%)	16.9 (0.5%)	16.7 (-1.3%)	15.7 (-6.0%)
民間非住宅建設投資	14.2 (4.0%)	11.0 (-10.0%)	14.6 (3.9%)	15.3 (5.0%)	16.3 (6.7%)	17.1 (4.8%)	17.0 (-0.6%)	16.3 (-4.2%)
民間建築物RR投資	—	—	6.2 (—)	6.0 (-2.9%)	6.3 (4.5%)	6.2 (-1.7%)	6.2 (1.0%)	6.3 (1.0%)
実質建設投資	54.7 (-3.5%)	42.5 (-2.8%)	53.7 (19.0%)	55.5 (3.5%)	56.2 (1.1%)	54.6 (-2.8%)	54.9 (0.5%)	53.9 (-1.8%)

資料出所: RICE一般財団法人 建設経済研究所「建設経済モデルによる建設投資の見通し(2020年5月)」

国内営業基盤の拡充

全国各地で進行中の主な大型プロジェクト

東西の大型プロジェクトに向けた建設需要、各地で進行する鉄道網整備が加速

火力発電



リニア中央新幹線



北海道新幹線



地熱発電



北陸新幹線



東京五輪関連工事



九州新幹線 武雄温泉一長崎



2025大阪万博



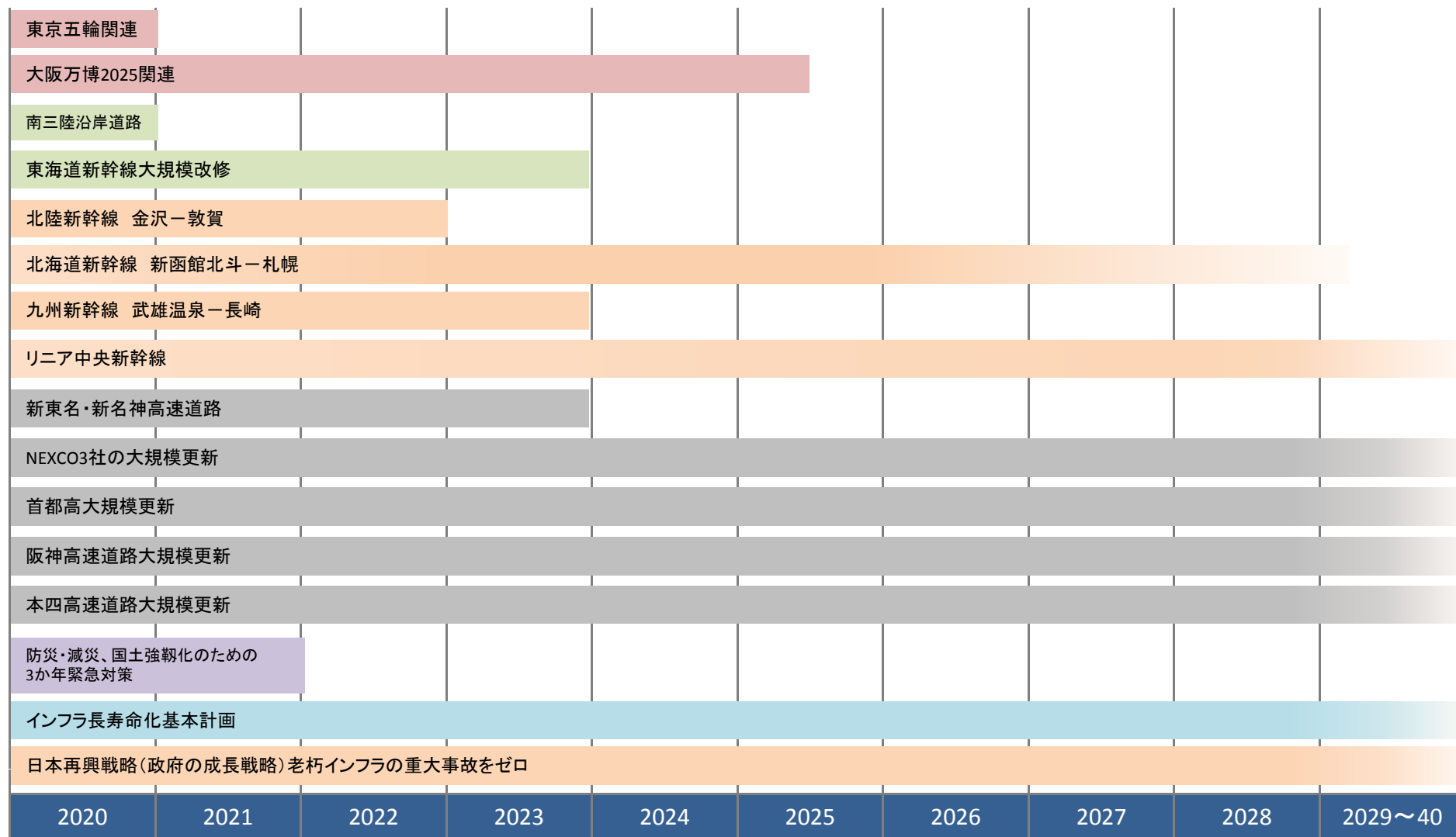
NEXCO3社の大規模更新



国内営業基盤の拡充

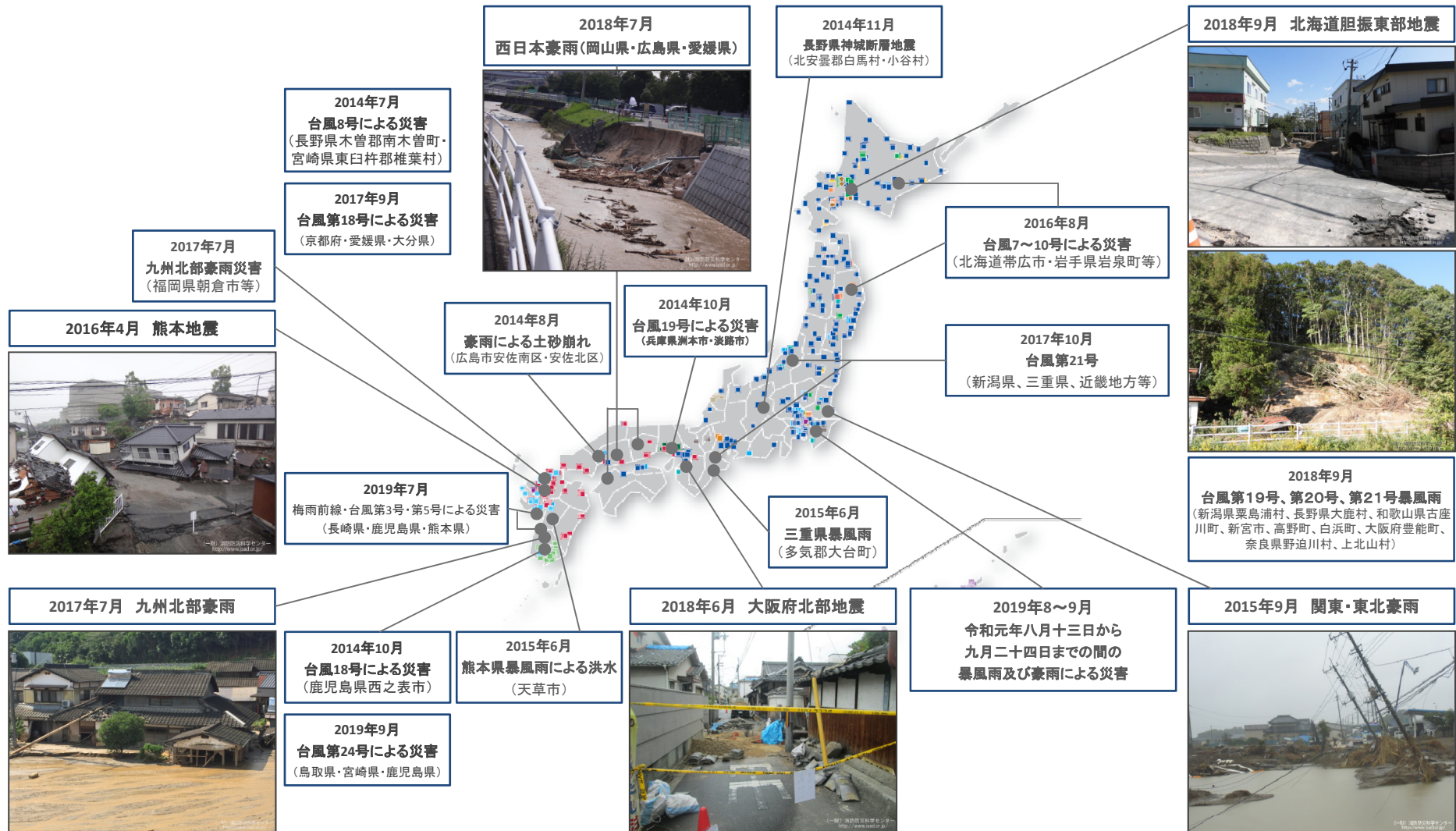
全国各地で進行中の主な大型プロジェクト

大型プロジェクトは長期的な案件が多いため、建機レンタル需要は、今後も底堅く推移する見通し



国内営業基盤の拡充

地震による土砂崩れ、局地的豪雨による洪水・土砂崩れ等の被害が各地で発生

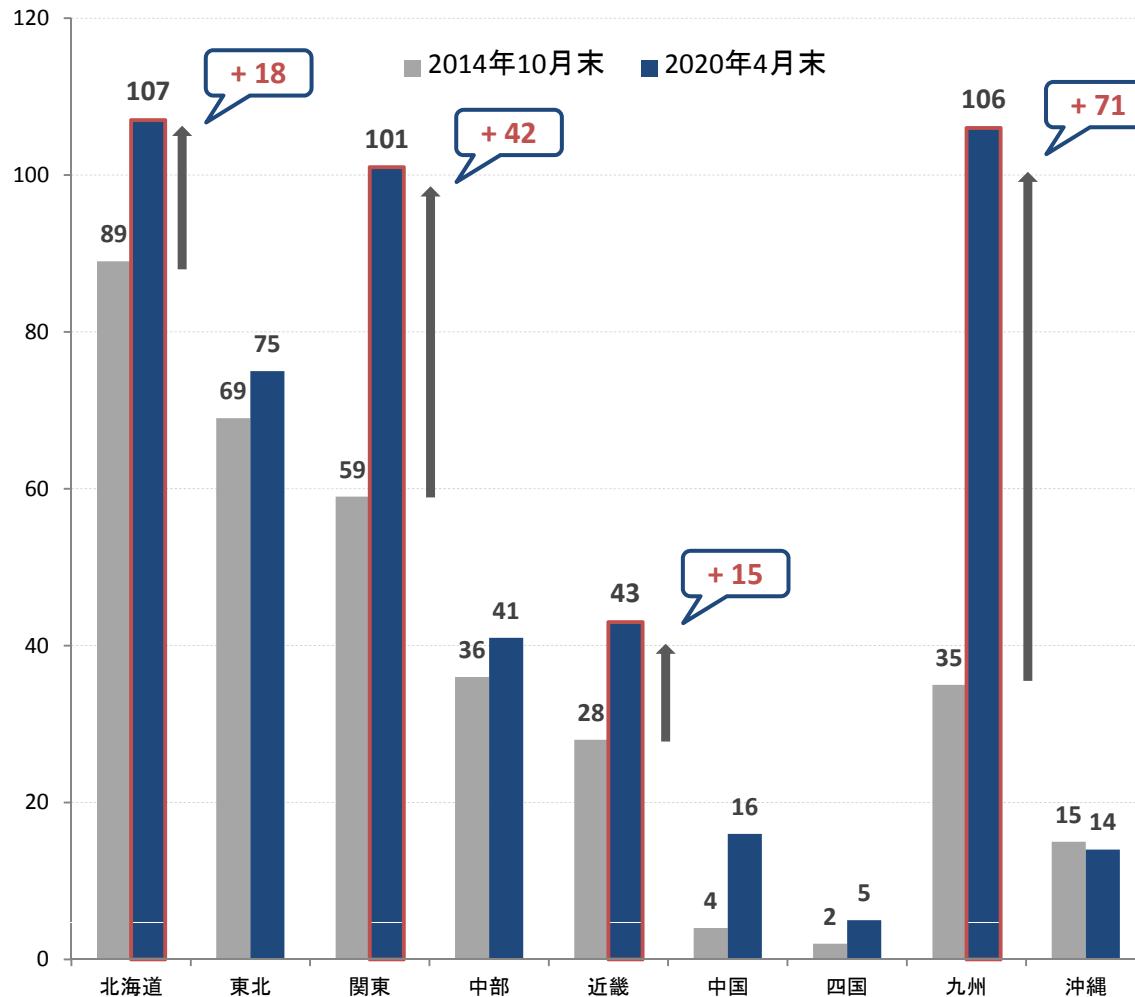


資料出所: 内閣府HP 写真: 一般財団法人消防防災科学センター (注) 上表は主な災害名を記載しているため、激甚災害指定されている災害であっても、一部含まれていない災害名もございます。

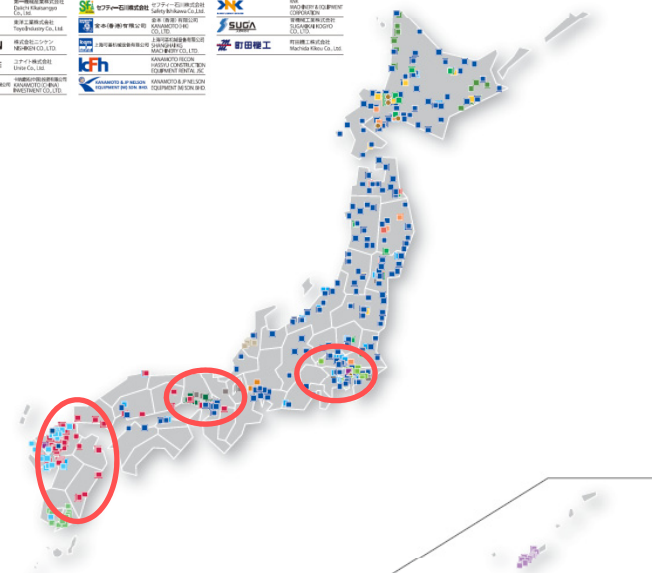
国内営業基盤の拡充

国内営業拠点数の推移

カナモト単体の国内営業拠点数は、34拠点を新設し203拠点
アライアンスグループは、171拠点増加の508拠点と着実に営業基盤を拡充



kanamoto ALLIANCE GROUP



国内営業拠点数の推移 ※海外拠点数除く

	2014年10月末	2020年4月末	増減数
単体	169	203	34 拠点増
アライアンスグループ	337	508	171 拠点増

国内営業基盤の拡充

2020年10月期における当社単体の出店実績

2020年
5月OPEN



2020年
4月OPEN



倉敷営業所 (岡山県倉敷市)

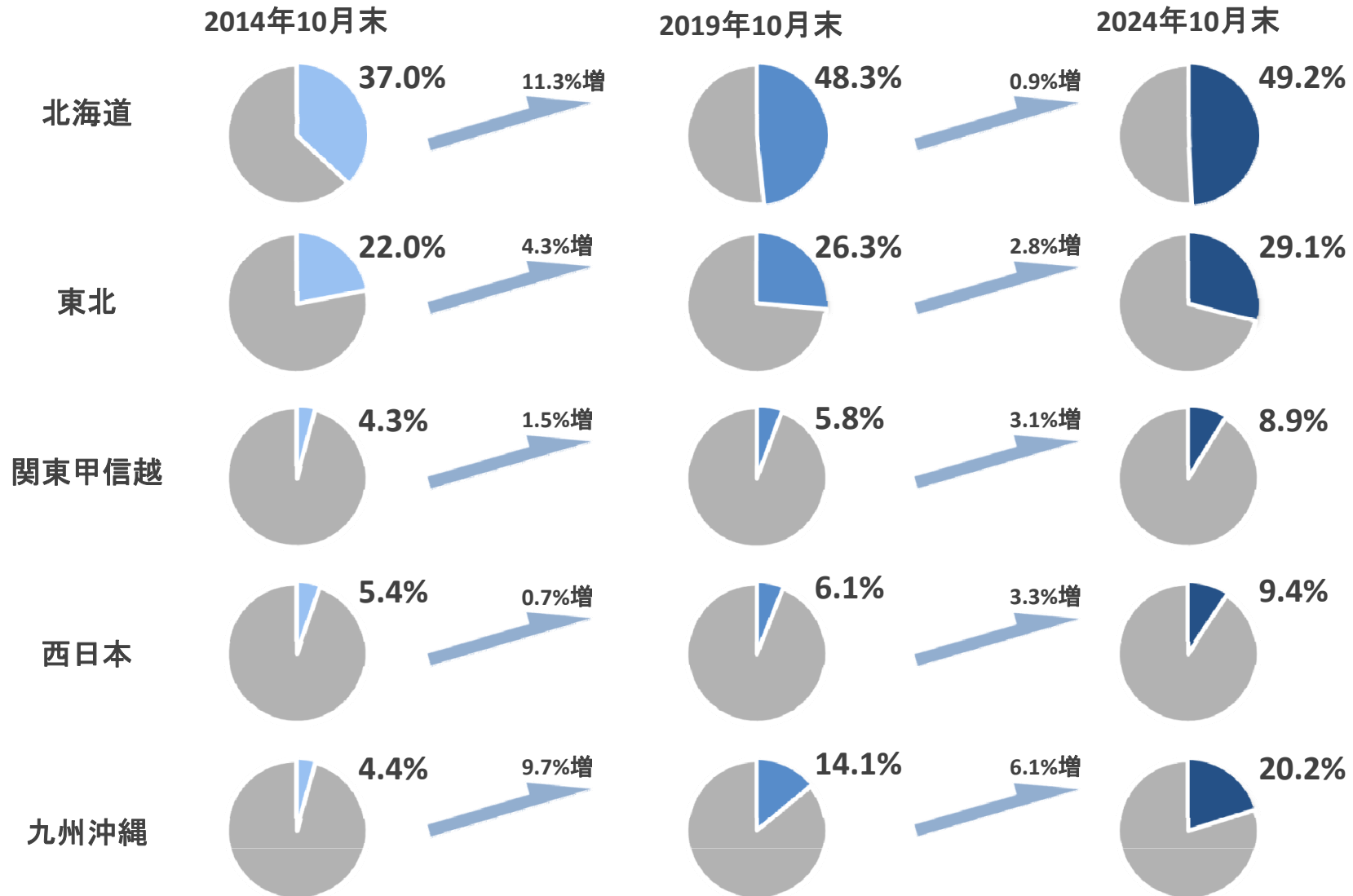


特機エンジニアリング部荒尾機械センター
(熊本県荒尾市)



国内営業基盤の拡充

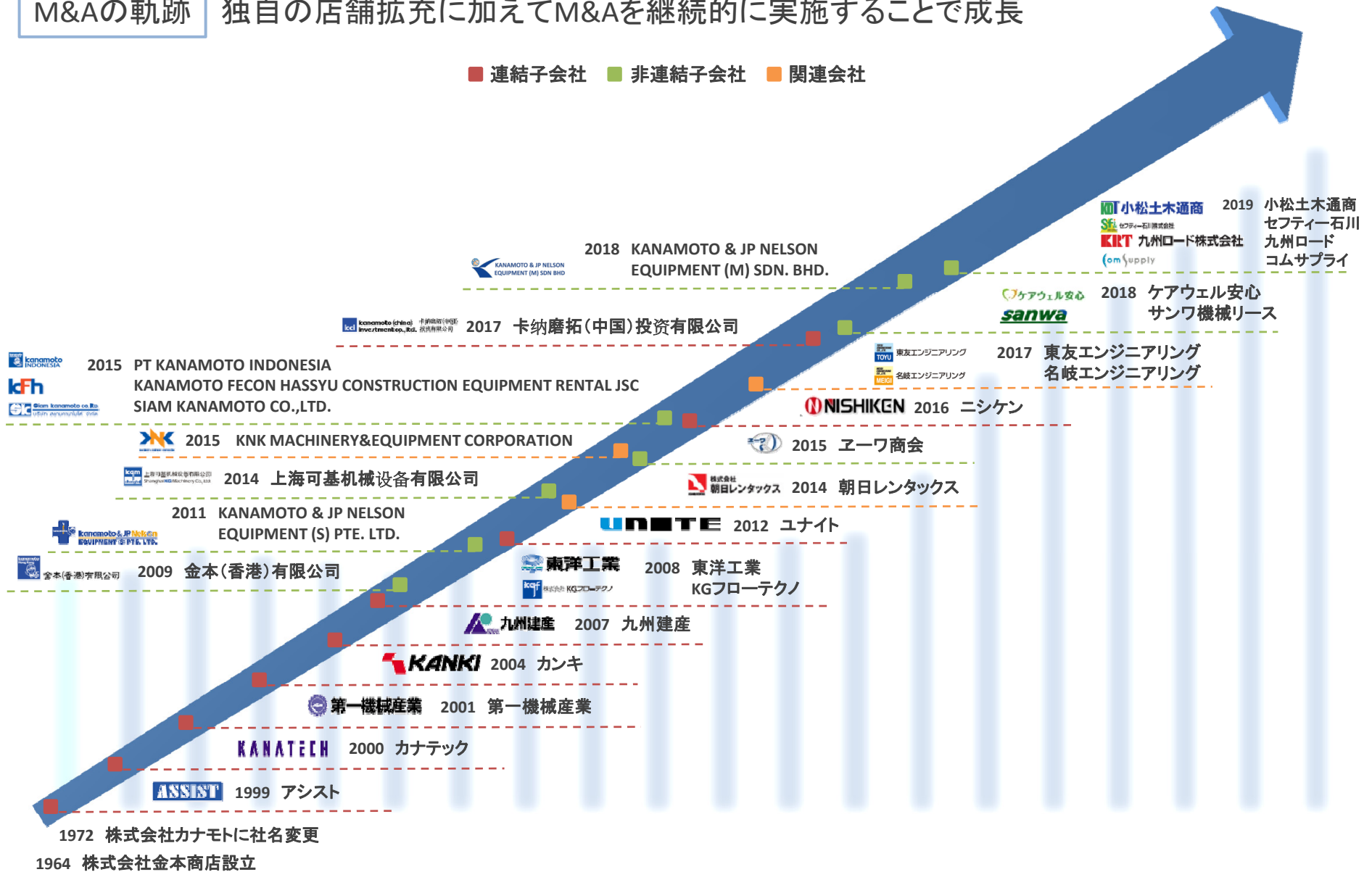
空白エリアを優先した地域戦略推進・営業強化とシェアの拡大



国内営業基盤の拡充

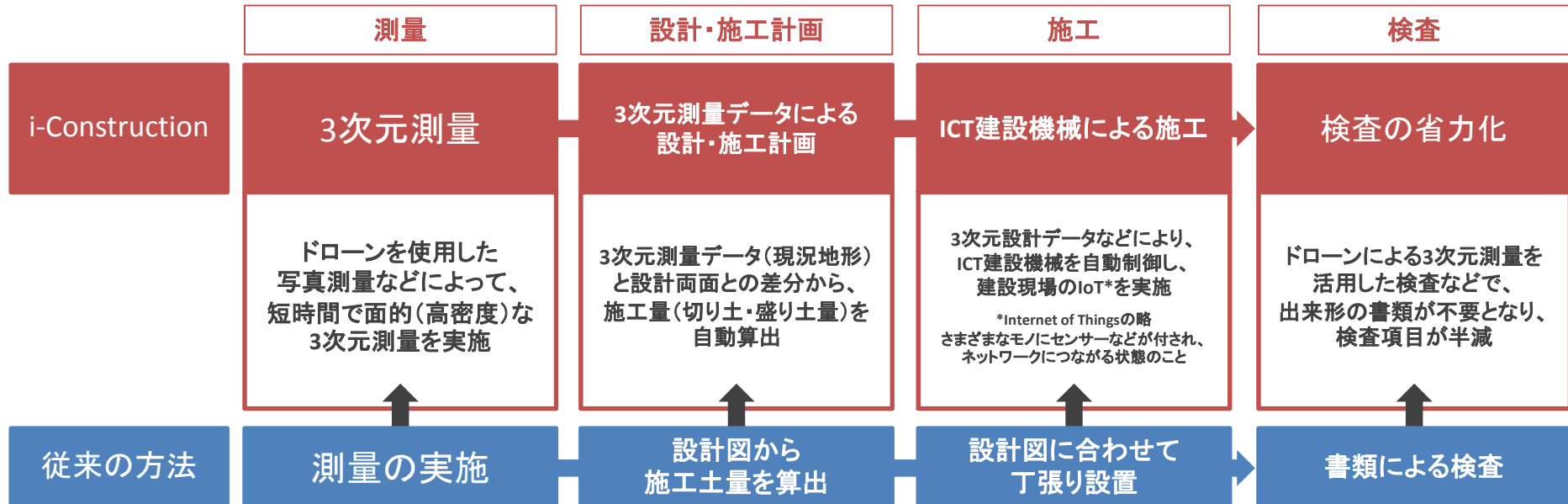
M&Aの軌跡 独自の店舗拡充に加えてM&Aを継続的に実施することで成長

■ 連結子会社 ■ 非連結子会社 ■ 関連会社



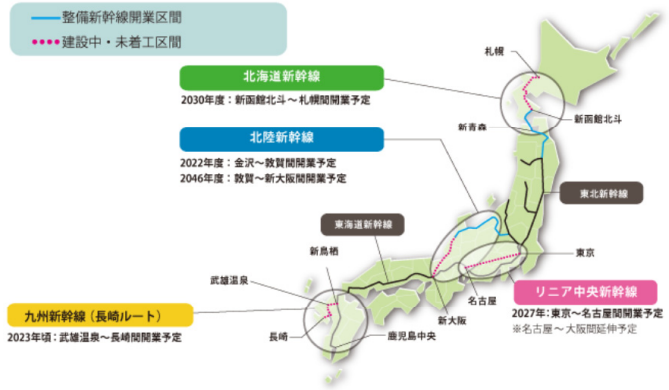
国内営業基盤の拡充

i-Constructionへの取り組み



国内営業基盤の拡充

トンネル工事への体制強化／交通インフラプロジェクト概要

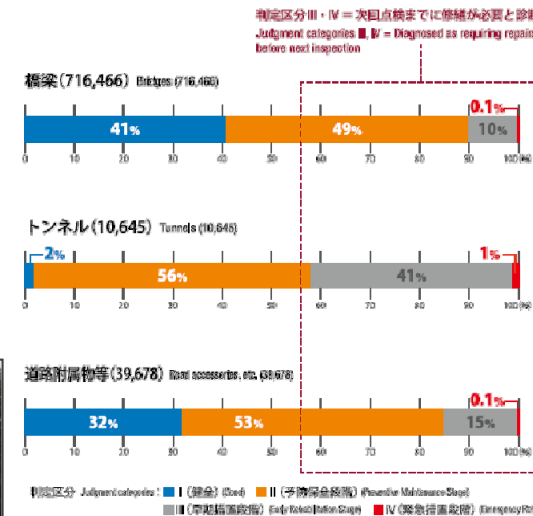


		供用延長 (全体)	更新計画			備考
			大規模更新	大規模修繕	更新計画合計	
全国路線網	NEXCO	延長 約20,000km (のべ延長)	237km	1,872km	2,109km (全体の約10%)	事業期間はH27～H41(15年間) 料金徴収期間を10年延長(～H72.6.24)
		費用 -	17,468億円	12,597億円	30,064億円	
本四高速		延長 約150km (のべ延長)	-	30km	30km (全体の約20%)	
		費用 -	-	247億円	247億円	
首都高速		延長 約300km (道路延長)	8km	55km	63km (全体の約20%)	事業期間はH26～H40(15年間) 料金徴収期間を15年延長(～H77.9.30)
		費用 -	3,775億円	2,487億円	6,262億円	
阪神高速		延長 約250km (道路延長)	5km	57km	62km (全体の約25%)	事業期間はH27～H41(15年間) 料金徴収期間を12年延長(～H74.9.18)
		費用 -	1,509億円	2,176億円	3,685億円	



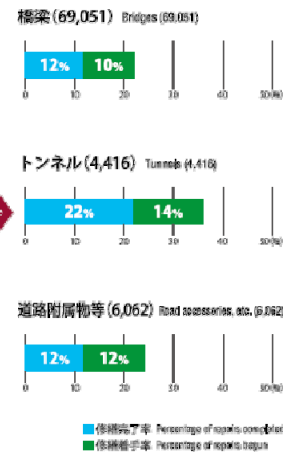
橋梁・トンネル・道路附属物等の判定区分の割合

Judgment category percentages for bridges, tunnels, road accessories, etc.



事後保全型（判定区分 III・IV）の修繕完了率・着手率

Percentage of corrective maintenance repairs completed/begun (Judgment categories III and IV)



資料出所：阪神高速道路株式会社「大規模修繕・更新の事業化について(平成27年3月30日)」国土交通省資料「道路メンテナンス年報(2019年8月)」

Ⅱ 国内営業基盤の拡充

Ⅱ 海外展開

Ⅱ 内部オペレーションの最適化

海外展開

「海外展開」－ 海外戦略2.0 (Next Generation) へのバージョンアップ

・グローバルポートフォリオの最適化

～経営資源の“選択と分散”

・カナモト版グローバルプラットフォームの確立

～海外拠点における仕組み作り

・ノンオーガニック戦略～海外でのM&Aの取り組み

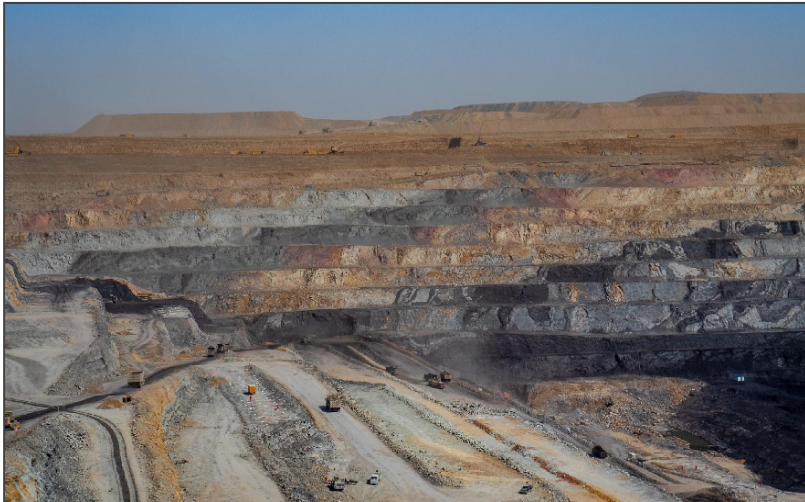
～海外でのM&Aの取り組み

・海外売上比率10%への布石



海外展開

海外事業は当社の中長期の成長エンジンととらえ、既存子会社を維持拡大させつつ、当社グループの得意分野でもある地盤改良等で特色を発揮



海外展開

海外事業は当社の中長期の成長エンジンととらえ、既存子会社を維持拡大させつつ、当社グループの得意分野でもある地盤改良等で特色を発揮



|| 国内営業基盤の拡充

|| 海外展開

|| 内部オペレーションの最適化

内部オペレーションの最適化

「内部オペレーションの最適化」ー レンタルビジネスの収益性向上

- ・営業戦略(マーケティング、営業)とITの融合
- ・商品企画、研究開発への資源投資 工事現場に必要な技術やシステム開発
～カナロボ ナクシデント AXキューイン ICT建機～
- ・業務効率向上
- ・グループ流通を促進する環境整備
～原価コントロール、長期的な安定稼働～
- ・人財の確保と育成への注力

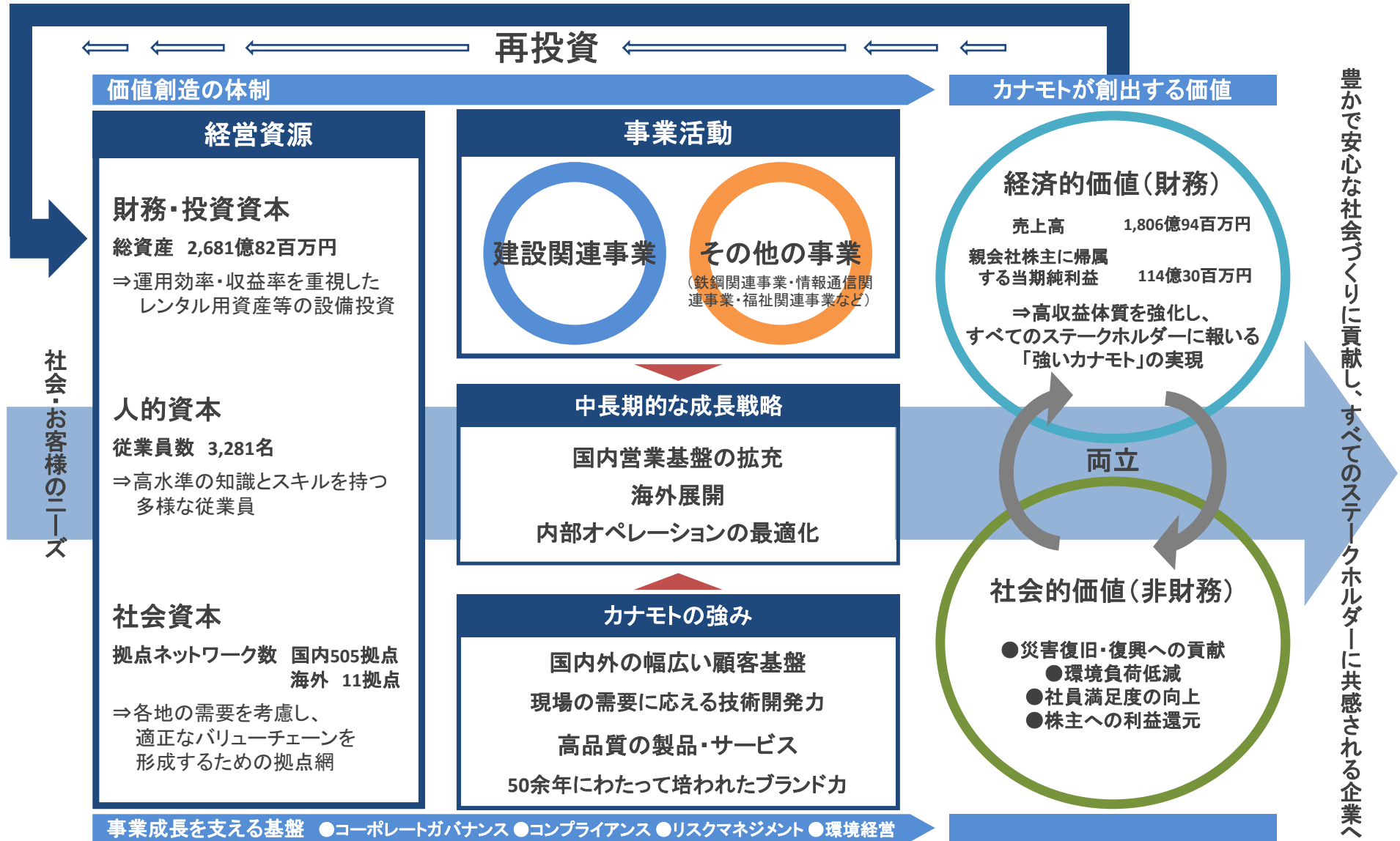


関連会社新レンタル業務システム 導入計画







カナモトの価値創造プロセス

カナモトグループは、社会・お客様のニーズを起点に経営資源を統合的に活用しながら、建設関連事業をコアとしたグローバルな事業展開、強固なコーポレート・ガバナンスおよび最適化された体制・仕組みを通じて、社会課題の解決につながる価値を創出していきます。



カナモトグループのESGにおける重点テーマ

価値創造を支える基盤	価値創造	SDGs達成に貢献する ビジネス	製品・サービスを通じて、SDGsの達成に貢献する新しい価値を創造し、持続的な社会の発展に貢献します。	
	E 環境	環境	限られた地球資源のなかで持続可能な社会を実現するために、環境法規の遵守、適切な環境マネジメントの推進はもとより、あらゆる事業活動において環境との関わりを認識し、環境への負荷を低減するとともに生物多様性を保全します。	
	S 社会	ディスクロージャーとIR活動の充実 情報セキュリティの強化 安全衛生体制の強化 人材育成の環境整備	公平性・透明性が高く、速やかな情報開示と開示媒体の拡充を実践するとともに、国内外の株主・投資家に向けたIR活動の充実を図ります。 個人情報をはじめ、多くの情報資産を取り扱う企業の責任として、情報資産の管理と保護のため、万全なセキュリティを確保します。 すべての役職員が安全で心身ともに健康で生き活きと仕事に取り組むことができる職場環境の維持・向上を目指します。 さまざまな視点・考え方をを持った人材がそれぞれの個性や能力を十分に発揮し、その多様性によってイノベーションが生まれる環境を目指します。	
	G ガバナンス	コーポレート・ガバナンス コンプライアンス 内部統制システム リスクマネジメント	企業価値を向上していくために、コンプライアンスの強化、コーポレート・ガバナンスやコンプライアンスの推進が重要な経営課題であると認識し、これを推進します。	

「環境との調和」を目指し、当社はもとよりグループ企業が丸となって実効性の高い環境保全活動に取り組んでいます。

With the goal of "harmony with the environment", Kanamoto and the companies in the Kanamoto Group work together to engage in highly effective environmental conservation activities.

社会やステークホルダーに対し、常に公平・公正に接するとともに、持続的成長の推進力となる人材育成に注力しています。

We focus on cultivating human resources who are always fair and honest with society and the Company's stakeholders, and who can drive sustainable growth.



コーポレート・ガバナンスの推進、コンプライアンスの強化などを実践することによって企業価値の向上に努めています。

We strive to increase corporate value by promoting corporate governance and practices that strengthen compliance.



新型コロナウイルス感染症に対する取り組み

当社はお客様並びに社員の安全確保を最優先に、政府や地方自治体からのご要請を踏まえ新型コロナウイルスの感染防止に向けた行動計画と対応方針のもと、状況の変化に対応しております。

対応策・対応予定策

2020年3月6日(金)時点

- 集合会議開催に当たっての規模の縮小、テレビ会議システムの活用、延期
- 時差出勤の弾力運用を可とし、必要に応じ管理監督者の判断で指図
- 小中高校の休校等による休暇の取得を推奨
- 役職員本人や家族に発熱や咳など風邪の症状がある場合は休暇等を取得
- お客様対応として、レンタカー・重機等レンタル機器のご返却・お貸出に際し、通常の清掃作業に加え、アルコールや次亜塩素酸ナトリウム等によるハンドル・ドアノブ・シフトレバー等手指が触れる箇所の消毒を励行
- 万が一、弊社役職員に新型コロナウイルス感染が発生いたしました場合には、速やかに濃厚接触者の確認による適切な対応や必要に応じた営業所の休止・消毒等を実施、弊社HPへ開示



2020年4月8日(水)時点

- 緊急事態宣言対象地域では、各部署でグループ分けを行い、概ね社員の半数程度を交代で自宅待機・在宅勤務
- 出勤する社員には、時差出勤を推奨
- 出張・接待・社内飲食等を原則禁止し、長時間の商談やご面会も極力回避

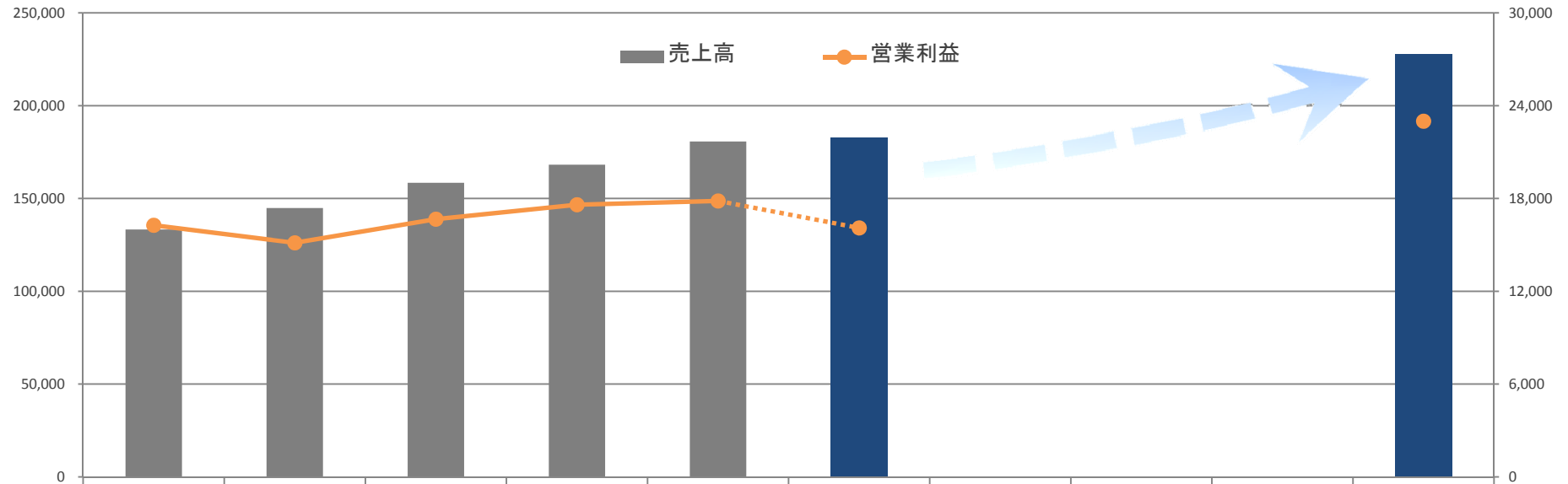
今後とも、お客様並びに社員の安全確保を最優先に、政府或いは地方自治体からのご要請等、状況の変化に対応してまいります。



Creative 60

外部環境の変化(資材・労務費の高騰、競争激化等)、自社環境の変化(レンタル原価、人件費の上昇等)による成長阻害要因を克服し、新しい時代の強いカナモトグループを創造する。

(単位:百万円)



	51期 FY2015	52期 FY2016	53期 FY2017	54期 FY2018	55期 FY2019	56期 FY2020/E	57期 FY2021/E	58期 FY2022/E	59期 FY2023/E	60期 FY2024/E
売上高	133,292	144,870	158,428	168,188	180,694	182,700				228,000
営業利益	16,270	15,134	16,665	17,599	17,842	16,100				23,000
営業利益率	12.2 %	10.4 %	10.5 %	10.5 %	9.9 %	8.8%				10.1%
経常利益	16,164	14,405	17,193	17,925	18,277	16,400				—
親会社株主に帰属する当期純利益	9,557	8,098	10,744	11,857	11,430	9,900				—
純資産	71,998	81,434	91,788	102,031	121,779	—				—
総資産	202,578	220,540	227,155	241,374	268,182	—				—

BULL55 業容の拡大

体制強化

強いカナモトグループへ

・売上高 2,000億円への達成 ・最高利益の更新



【免責事項】

本説明会及び説明資料に含まれる歴史的事実ではないものは将来の見通しです。
将来の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり多分に不確定な要素を含んでおります。
従いましてこれらの見通しのみで全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。
実際の業績等はさまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なる場合がありますことをご了承ください。

お問い合わせ先

株式会社カナモト 広報室

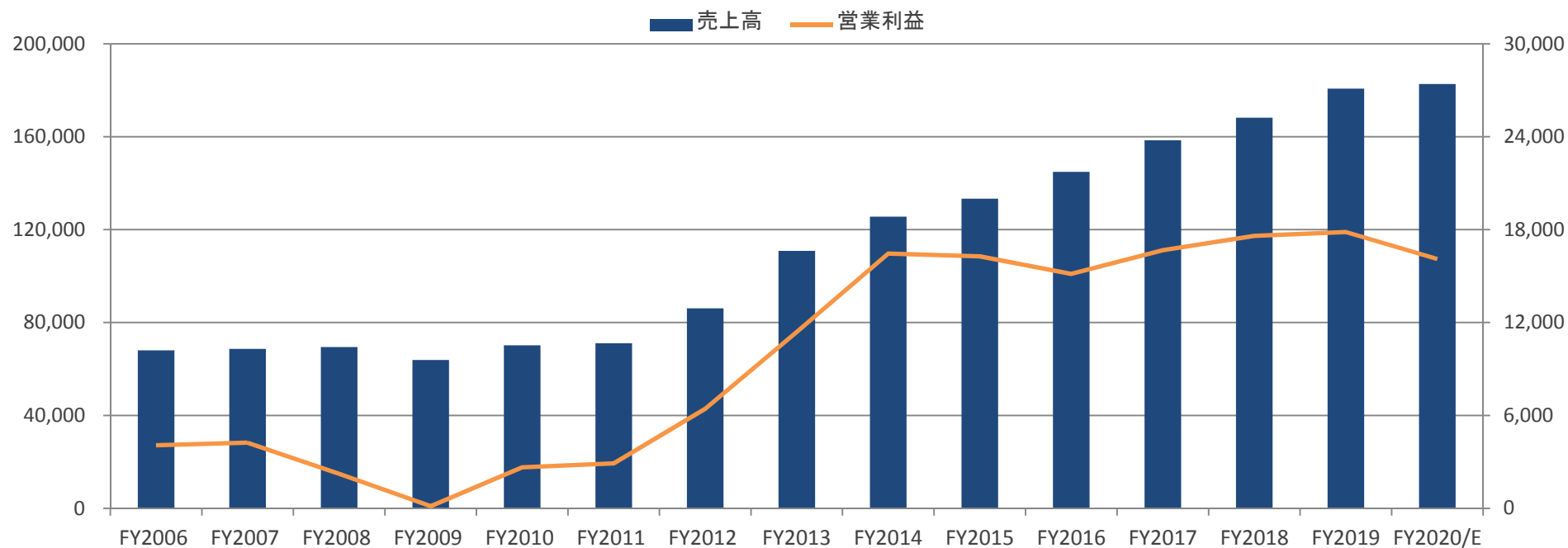
〒060-0041 札幌市中央区大通東3丁目1-19
TEL.011-209-1631(土日祝除く 8:30~17:00)

ホームページ <https://www.kanamoto.co.jp>
IRサイト <https://www.kanamoto.ne.jp>

参考. 15年経営指標(連結)

(単位: 百万円)

	FY2006	FY2007	FY2008	FY2009	FY2010	FY2011	FY2012	FY2013	FY2014	FY2015	FY2016	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020/E
売上高	68,023	68,626	69,411	63,863	70,173	71,086	86,106	110,831	125,555	133,292	144,870	158,428	168,188	180,694	182,700
営業利益	4,068	4,236	2,227	137	2,648	2,905	6,430	11,392	16,454	16,270	15,134	16,665	17,599	17,842	16,100
経常利益	3,788	4,416	2,028	-222	2,083	2,239	5,932	11,073	16,078	16,164	14,405	17,193	17,925	18,277	16,400
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,742	3,035	644	-1,158	1,041	1,165	3,575	5,809	9,299	9,557	8,098	10,744	11,857	11,430	9,900
純資産	38,051	39,973	38,202	36,541	37,025	37,592	41,399	56,192	65,513	71,998	81,434	91,788	102,031	121,779	—
総資産	86,815	85,155	91,741	96,435	108,509	115,120	137,343	169,250	188,082	202,578	220,540	227,155	241,374	268,182	—



参考.株価推移 2010.6~2020.6



(C) 2020 Yahoo Japan Corporation.

<https://stocks.finance.yahoo.co.jp>